

エリア ウェブ

峡東教育事務所
 地域教育支援スタッフ
 TEL 0553-20-2737
 FAX 0553-20-2733

閲覧・配布をお願いします。増す刷り配布はご自由にどうぞ。 この情報紙は山梨県庁のホームページでも掲載中です。
<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

すばらしい地域づくりを目指して

～子育てのネットワークを広げよう～

地域の中に足を運んでみると、子育てに係わる機関や団体が実に多いことに驚かされます。公的な機関はもちろんですが、NPO法人や個人のグループが積極的に子育てを支援しています。さらに、お母さん方が子育てサークルを立ち上げ、情報交換や自主的な活動を行っています。核家族が増えてきた今、そうした子育てのネットワークがとても重要になってきています。

近頃地域の方々が、学校を訪れる機会も増えてきました。また学校の子どもたちが授業の中で、職業体験、ボランティアなどで地域と交流する機会も増えてきました。「家庭・学校・地域」がそれぞれの役割をしっかりと果たすと同時に、お互いを認め合いながら交流・連携することが、よりよい地域づくりにつながると思います。

笛吹市福祉ボランティアまつり



10月14日(日)いちのみや桃の里スポーツ公園で、笛吹市ボランティア祭りが開催されました。

これは笛吹市社会福祉協議会をはじめ、身体障害者施設団体、福祉団体が協賛し、地域の方が大勢参加していました。

焼きそばなどの食べ物屋さん他に、手芸、陶器、整体コーナーなど、各団体の出店がずらりと並びました。その店を手伝っていたのが笛吹市内から集まった中学生たちです。

また、会場の中央には、笛吹市内の小学校、中学校が行っている福祉活動の様子を伝えるコーナーがあり、多くの方が感心して見ていました。ぜひご家庭でもそんな子どもたちの取り組みに関心を持ち、応援してください。



《小中学校のボランティアコーナー》

笛吹市ちびっこまつり

10月24日(水)に、市のスコレセンターで、乳幼児を対象とした「笛吹ちびっこまつり」が行われました。会場の集会室には、約100組のお母さんや子どもたちが参加し、リズム遊びやいろいろな体験をして、楽しいひとときを過ごしていました。

笛吹市の児童家庭課をはじめ、NPO法人、子育て支援団体、市の保健師さんなど、多くの団体が協力して毎年実施しているそうです。

市内の子育て支援団体による「親子遊びコーナー」、保健師や栄養士による「育児・食育相談コーナー」、「親子工作コーナー」など、様々な活動場所がありました。

《育児・食育相談コーナー》



(親子工作コーナー)



くの人々の協力が感じられました。

クササポ一各
ー育サや
ト育子
機関育
知るに
けり多
よ子育
の作て
をる
に作
な思
いと
す。ま
た、健
科学生
学大
生さん
もラン
イテ
アとし
一懸
一生命
を流汗
しまし多
ました。



3年生の国語の授業です。「命」の大切さについて考え、戦争を体験された方の話も聞きました。



4年生。障害をもつレナ・マリアの生き方両親の愛情について学習しました。

学校の教職員は、毎日の授業や教材研究の他に、夏休みの研修、放課後の校内研修、各サークルの研修なども行っています。

各地の取材を通して、家庭・学校・地域や各行政が、「地域の子ども」のために具体的な努力をし、協力し合っているのだと改めて感じました。



= お知らせ =

甲州子どもフェスタ

日時 平成19年11月7日(水)
午前10時~午後2時

場所 塩山ふれあいの森ふれあい館

対象 乳幼児とその親

主催 甲州市・子育てネットこうしゅう

《主な内容》

親子で遊ぼう バルーン遊び、読み聞かせ&手遊び&親子遊技など

子育て広場 子育て情報・食育・井戸端・歯科のコーナー、遊びの広場

いろいろスペース 託児室、授乳室・赤ちゃん休憩室

はらぺこ広場 焼きそば・綿菓子・ポップコーンなど

公開研究発表会

10月24日(水)には、御坂西小学校と御坂東小学校で公開研究会が行われました。「全ての子どもたちに分かる授業・確かな学力」を目指して、毎年笛吹市内の小中学校の教職員が授業を参観し合い、研究を重ねています。

両校の研究主題です。

御坂西小学校

「確かな学力」の定着を目指す学習指導
~一人一人がわかる授業づくりを通して~

御坂東小学校

命を大切に作る心をはぐくむ道徳教育

~総合単元的道徳学習を通して~

授業風景より

時間の都合で御坂東小学校を取材しました。



2年生の生活科の単元「おまつりをしよう」です。大勢の地域の方が、子どもたちのお店に参加していました。

「産技祭」

10月28日(日)台風一過の晴天の中、山梨県立産業技術短期大学の第9回産技祭(学園祭)が行われました。小学生ものづくり体験塾、模擬店コーナー、コンサートライブ、農業大学の農産物の販売等盛りだくさんの内容でした。



<小学生ものづくり体験塾>では、定員を超える近隣の小学生85名が保護者と一緒に、キーホルダーの製作・電子オルゴールを作ろう・フランスの家庭料理をつくって食べてみよう・自分で作ったキャラクターのミニゲームで遊ぼうの4コースの体験を行いました。学生の指導を受けながら作品を立派に完成しました。



お昼には、学生の作る模擬店で、おでんやフランクフルトを食べ、楽しい1日を過ごしました。

校長先生から次のようなお話を聞きました。「県立の産業技術短期大学は全国9県にあり、2年間に3年分ぐらいの授業を行い、高い技術を身につけて卒業します。毎年ほぼ100%の就職率で県内企業等に就職しています。授業料も県立ということで安い上に、卒業後の就職も心配がない、JR塩山駅からも近く通学の便もよい。ぜひより多くの県内の高校生に受験してほしい。」

「峡東地区 子育て講演会」のお知らせ

11月15日(木)午後2時より受付、2時30分開会、4時30分閉会の予定で、いちのみや桃の里ふれあい文化館で行います。

保護者や教職員の方、地域教育・生涯学習などに興味があり参加希望の方は、下記担当までお申し込みください。当日参加も可能です。また、託児(無料)もできます。

講師の井上先生は、国際人道法及び人権教育の専門家であり、関係の委員を数多く歴任すると共に、講演活動も多数行っています。<子どもの人権>の内容は、興味深い講演になると思います。

演題「豊かさの中で育てる生きる力」

～世界の視点で見る私たちの暮らしと人権～

講師 井上忠男 先生 日本赤十字 秋田短期大学教授

群馬県生まれ。早大卒。1976年日本赤十字社入社。機関誌の編集業務を経て国際部開発協力課長。アジア、太平洋、ソ連崩壊後の極東ロシア等の開発援助の他、イラクのクルド人救援活動、阪神大震災救護等に携わる。

また、青少年課長として青少年赤十字の育成と教育関係者への国際人道法の普及に当る。その後企画広報室参事として、2005愛知万博の国際赤十字パビリオン出展を担当。平成18年より現職。国際人道法国内委員会委員。

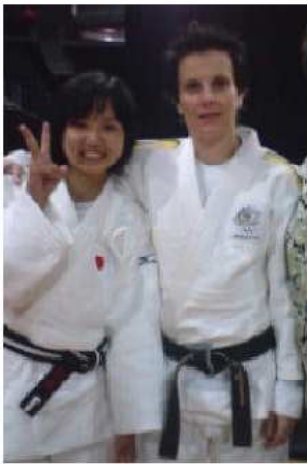


峡東教育事務所地域教育支援スタッフ、峡東地域教育推進連絡協議会事務局
雨宮 政文、中林 睦彦、宮崎 靖 TEL.0553-20-2737

塩山高校生の活躍

平成19年10月作成

日本代表として オーストラリアへ



普通科2年の小山田絵美さんは、8月25日から9月7日まで開催された、日豪高校柔道国際交流大会（全国高等学校体育連盟主催）に出場しました。

小山田さんは5月の県総体での52kg個人優勝が認められて、日本代表に選出されました。

塩山下於嘗在住
柔道部女子主将

農業の保全へ バイオマスに注目



英数コース3年の広瀬誠くんは里山の保全活動中。来年以降も下級生に参加してもらい、高校の伝統として継続していきたいそうです。

現在は大学受験を控え猛勉強中です。

塩山下於嘗在住
バドミントン部男子部長

● 気持ちが大切

◇海外遠征での合同練習や日常生活では、相手のとのコミュニケーションが大切と痛感しました。自分の気持ちをどんな形でもいいから伝える事、逆に相手の気持ちを分かろうとする事です。

◇今回の海外遠征では、「気持ちが大切」でした。それがお互いを高めていくために必要と実感しました。今回は国内の遠征や対外試合では得ることができない経験をさせていただきました。今後は高校での学習はもちろんのこと、来年のインターハイに照準を合わせて、練習していきたいと思っています。

**農地の保全へ
バイオに注目**

◇岐阜地域の高校に通っているが、近年、この地域でも耕作放棄地が徐々に増えていることが気に掛かっていた。そこでこの夏、その現状と対策について農業関係の方々へ話を伺った。私自身も地域内の農地の荒廃ぶりを見て回り、マンブ化して切迫した状況を再認識した。私たちをほくくんでくれた郷土の農地が失われる、景観が損なわれていることを残念に感じ、友人たちと耕作放棄地を農地に戻すボランティア活動を始めた。一昨年度は農地を再生するのは実に大変だと痛感した。

◇さらに、耕作放棄地をバイオマスによるエネルギー供給源として活用できないかと考え、バイオ燃料用作物を植えてみた。並行してバイオエタノール作成の実験も高校の科学部の活動で行った。この結果、実際にバイオ燃料は取り出せても、経済コストから見ると採算が合わないというバイオマスの弱点を実感した。

◇しかし、耕作放棄地の増加を阻止し、いざというときに食料生産の本来の畑に戻せるよう、バイオ燃料作物を栽培することは有益だと思つた。「耕作放棄田畑を「油田」に」という考えは、燃料生産だけに限定したコスト計算では採算難から実現しないだろう。農地の保全は食料自給、景観、病害虫防除などの観点からも重要である。その価値をバイオ燃料生産がもたらす利益だと認めるか否かが鍵となる。これがこの夏、耕作放棄地の問題に取り組んだ一高校生の感想である。

【甲州市 塩山高3年広瀬 誠】

平成19年9月30日の山梨日日新聞で広瀬くんの研究が、紹介されました。

